

<憩いにもどれ>

詩篇103:1~5

わがたましいよ。主をほめたたえよ。私のうちにあるすべてのものよ。聖なる御名をほめたたえよ。わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。【1~3節】

私たちは与えられているもので満足するという事が得意でない。

だから、自分に与えられているものを見過ごしてしまう。

そのような者に向かって、

「主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな」と言われる。

1、忘れないための秘訣は、 ことにある。

神からの恵みを受けても、苦々しい嫌な記憶の方がクローズアップされがち。放っておいたら心配や思い煩いばかりが重くのしかかり、輝きは失われる。

「わがたましいよ。主をほめたたえよ。」と自分のたましいに向かって命じている。自分の口を開いて、声を出して、主に向かって歌う。賛美を捧げなさい！！

ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。ヘブル13:15

あなたは聖であられ、イスラエルの賛美を住まいとしておられます。詩篇22:3

<使徒16章>

初代教会の宣教が広がる中で、迫害によりパウロとシラスが鞭打たれ投獄された。足かせをはめられた獄中で、彼らは賛美と祈りをささげた。

真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。【25節】

2、主がよくしてくださった事を忘れてしまうのは

忘れてしまうのは、物忘れからではない。

「自分が優れているから受けた」という心の高慢が、神から与えられたものを「当たり前」にしてしまう心の状態。

私のたましいは、おまえの全きいこいに戻れ。主はおまえに、良くしてくださったからだ。

詩篇 116 : 7

<ヒゼキヤ王> II 列王記 18、19 章

ヒゼキヤ王の時代、アッシリヤ帝国の脅威が迫りエルサレムは包囲されて、絶体絶命の状態になった。主に従う王であったヒゼキヤ。主の助けの元に危機を逃れた。

その後、ヒゼキヤが病にかかり助からない状態になったとき、ヒゼキヤは神とともに歩んできたことを訴え祈る。そして、この祈りは聞かれヒゼキヤはさらに15年のいのちを得た。

ところが、ヒゼキヤは、自分に与えられた恵みにしたがって報いようとせず、かえってその心を高ぶらせた。 II 歴代誌 32:25

<ダビデ>

獅子や、熊の爪から私を救い出してくださった主は、あのペリシテ人の手からも私を救い出してください。 I サムエル記 17 : 37